

令和8年度 市長との対話集会（西津地区） 議事要旨

日 時：令和8年7月24日（金）19時00分～20時40分

場 所：西津コミュニティセンター

参加者：40名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

(1) 公共施設・遊休空間の活用と遊び場整備

- ・総合公園の設備拡充（車中泊用100V電源、時計設置、トイレ改修）や、野外映画上映、フリマ等のイベント開催。
- ・旧水産高校のグラウンドや海岸・堤防沿いを、観光客の広場や地域住民・若者が集う憩いの場（堤防をベンチとして整備、スポーツ施設等）として活用。
- ・地域住民や観光客が気軽に立ち寄れる飲食場所や、中高生向けの遊ぶ施設の整備。

(2) 観光振興と小浜ブランドの強化

- ・若狭塗箸や小浜の鯖、湧水（雲城水）などの地域資源を活かしたブランド化と情報発信（SNS活用、サバ缶の自販機設置など）の強化。
- ・エンゼルラインでのヒルクライム大会や、若狭湾でのマリンスポーツ（ウインドサーフィン等）の大会誘致など、海と山を活かしたイベントの開催。
- ・空き家や古民家を活用したゲストハウスやカフェの展開による滞在型観光の促進。

(3) 生活環境と公共交通の確保

- ・高齢者の免許返納後を見据えた公共交通・移動手段の確保が必要。
- ・新幹線の新駅周辺のまちづくりに合わせ、ショッピングモールの誘致など、利便性の高いまちづくりの検討が必要。

(4) 教育と地域活動の継承

- ・P4C（こども哲学/対話力向上事業）の小中学校への導入や、DX教育の強化。
- ・地蔵盆などの地域行事をマニュアル化し、子どもが主体的に参加・継承できる仕組みを作る。

(5) 産業・雇用・まちづくりへの挑戦

- ・若者が住みたいと思えるよう、食や農水産物の商業化を通じた働く場所の創出、企業誘致（データセンター等）などの起業支援が必要。
- ・新幹線開業を見据え、近隣市町との連携や、特に関西圏に対する二拠点居住等のPRを強化。

2 市長からの主な回答

(1) 公共施設・空間の活用について

- ・総合公園について、トイレ改修や時計設置など、施設の再整備にあわせてできるよう県と相談する。また、公園内に民間カフェ等を誘致し、利便性向上と管理機能を併せ持たせる手法についても県と協議をしたい。

- ・旧水産高校・海岸エリアの活用については、景色を活かした広場や、海沿いの空きスペースにバスケットコート等の簡易なスポーツ施設を整備するなど、若者や住民が過ごしやすい空間づくりを検討していきたい。

(2) 観光振興とブランド化について

- ・地域資源の活用とイベント誘致については、若狭塗箸や食の体験型観光を推進する。エンゼルラインでの自転車レースや若狭湾でのマリンスポーツ誘致は実現可能性が高いため、開催に向けた環境整備を検討していきたい。
- ・湧水の活用については、単に水を汲むだけでなく「足水」のような憩いの場を創出するなど、湧水を活用した新たなまちづくりを検討する。

(3) 生活環境・公共交通について

- ・公共交通体制の再構築については、西津橋の架け替えによる利便性向上に加え、高齢者や住民が利用しやすい新たな公共交通体系を地域の方と共に検討していきたい。
- ・企業誘致とまちづくりについては、新幹線開業に向けた小浜のブランディングを高めることで、ショッピングモールや民間企業の進出を促す環境整備を行っていく。

(4) 教育と地域活動について

- ・対話力・コミュニケーション能力の育成については、タブレット普及に伴う課題に対し、P4C等の対話型学習を小学校から実施することや、地域探究活動を通じた世代間交流を推進し、子どもたちのコミュニケーション能力の向上に繋げていく。
- ・地域活動については、地蔵盆等の行事において、水鉄砲を活用するなど子どもが主体的に楽しめる工夫は素晴らしく、マニュアル化等の取り組みも効果的である。

(5) 産業・雇用・広域連携について

- ・若者の起業・商業化支援については、若者が空き家を活用したゲストハウス運営や、地元食材（鯖、日本酒等）の加工・商業化に挑戦しやすいよう、行政としてのサポート体制を強化していきたい。
- ・新幹線を見据えた広域連携とPRについては、小浜が若狭エリアのハブとなるべく近隣市町と連携したまちづくりを進める。また、関西圏に対し、SNS等を活用して二拠点居住のニーズを喚起するPRも今後、行っていきたい。